



白山郷土資料館

津市の南西部に位置する白山地域は、一級河川の雲出川が流れ、伊賀市との境に布引山脈が広がる自然豊かな地域です。近鉄大阪線や国道165号は津市と関西方面を結ぶ主要ルートの一つで、古くから白山地域は京都や奈良、大阪方面とつながりが深い場所でした。今回の歴史散歩では、この白山地域の歴史と文化を紹介する白山郷土資料館をご案内します。

白山公民館2階の展示室に入ると、まず白山地域の遺跡から発見された出土品が並んでいます。出土品は古い時代から順に展示していて、最も古いものは大角遺跡(川口)や亀ヶ広遺跡(二本木)から発見された縄文土器で、続いて岩井戸遺跡(二本木)などから発見された弥生時代の土器や石器が続きます。このほか、市史跡のガガフタ古墳群(南家城)から発見された古墳時代の須恵器や、寺屋敷経塚(垣内)から出土した市指定文化財の平安時代の銅鏡なども展示しています。

こうした遺跡からの出土品のほか、展示室の中央には、東光寺(川口)に伝わる市指定文化財の鰐わに口ぐちがあります。鰐口とは神社や寺院の前に、布を編んだ太い綱とともに吊るしてある円形の仏具のことで、表には慶長4(1599)年の年号が刻まれています。また、県内でも数少ない

中世文書で県の文化財に指定されている成願寺文書の複製のほか、市指定文化財の太閤検地に関わる文禄検地帳、初瀬街道の旅籠に掲げられていた講社札も展示しています。

白山地域の指定文化財を写真パネルで展示するコーナーでは、重要文化財の常福寺(八対野)の千手観音立像や、瀬古集会所(川口)の十一面観音立像、成願寺(上ノ村)の阿弥陀如来倚像をはじめ、地域に伝わるかんこ踊りや千本づきなどの無形民俗文化財を紹介しています。

展示の最後に置かれたケースでは、太平洋戦争も終わりに近い昭和20年6月に、二本木地区上空で起きたアメリカの爆撃機B29への日本の戦闘機「飛燕ひえん」の体当たり攻撃に関する機体の破片や遺品などを展示しています。

また、展示室と別に、民具・農具が置かれたコーナーもあり、白山地域で行われていた養蚕や農業などに関わる道具等を展示しています。

入館は無料で、土曜日には白山道しるべの会のボランティアガイドが常駐し、解説を聞くことができます。

開館時間 月～金曜日 9時～17時(入館は16時まで)、土曜日 10時～15時(入館は14時まで)

休館日 日曜日、祝・休日、12月28日～1月4日

